

# 30P1-am004

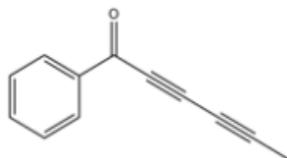
インチンコウに含まれる細胞致死活性成分

○梶田 梨恵<sup>1</sup>, 田中 基裕<sup>2</sup>, 佐々木 琢磨<sup>2</sup>, 水上 元<sup>1</sup>(<sup>1</sup>名市大院薬, <sup>2</sup>愛知学院大薬)

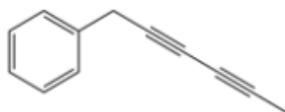
【目的】わが国で繁用される和漢生薬の薬理活性を再検索する研究の一環として細胞致死活性をスクリーニングした結果、インチンコウ、ゴシュユ、モッコウの3種類に比較的強い活性を見出した。そこで、インチンコウのメタノール抽出物を出発材料として、細胞致死活性成分を単離し、同定することを目的として研究を実施した。

【方法】生薬抽出物、分画および単離した化合物は DMSO に溶解し、最終濃度 1 ng ~ 100  $\mu\text{g/ml}$  の範囲で細胞に添加した。細胞致死活性は、ヒト口腔ガン細胞株 KB 細胞とマウス白血病細胞株 P388 細胞を用い、MTT 法により評価した。

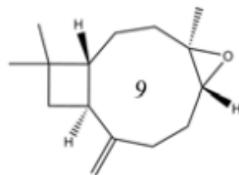
【結果および考察】106 種類の生薬メタノール抽出物について KB 細胞、P388 細胞に対する細胞致死活性を評価したところ、インチンコウは KB 細胞、P388 細胞に対して  $\text{IC}_{50} = 2.5 \mu\text{g/ml}$  と比較的強い活性を示した。そこで、これらの細胞に対する致死活性を指標として分画を行い、3 つの活性成分を単離した。各種スペクトルデータからそれぞれを capillin ( $\text{IC}_{50} =$  約  $0.03 \mu\text{g/ml}$ )、capillene ( $\text{IC}_{50} =$  約  $0.3 \mu\text{g/ml}$ )、caryophyllene oxide ( $\text{IC}_{50} =$  約  $2 \sim 20 \mu\text{g/ml}$ ) と同定した。現在、さらなる活性成分の単離、同定を試みている。



Capillin



Capillene



Caryophyllene oxide